

# 飛べ!ダコタ



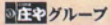
助成: 文化芸術振興費補助金



比嘉愛未 窪田正孝 洞口依子 中村久美 芳本美代子 螢雪次朗 園ゆきよ  
マーク・チネリー ディーン・ニューコム 綾田俊樹 ベンガル / 柄本明

監督: 油谷誠至 脚本: 安井国穂 友松直之 油谷誠至 音楽: 宇崎竜童 主題歌: 石井里佳「ホームシック・ララバイ」

エグゼクティブプロデューサー: 伊与木敏郎 製作: 株式会社アッシュジャパン 特別協賛: 株式会社ベストライフ

協賛: 新潟日報社  NHKグループ 昭和飛行機工業株式会社 プルボン 佐渡汽船 東放学園 住友不動産株式会社

後援: 新潟県 佐渡市 外務省 防衛省 駐日英国大使館 日本教育新聞社

配給: 株式会社アステア 製作支援: 映画「飛べ!ダコタ」製作支援実行委員会

©「飛べ!ダコタ」製作委員会

その島が選んだのは  
憎しみか  
日本人の誇りか

終戦から5ヶ月

佐渡の地に舞い降りた一機の英国機が運んだものは――

67年の時を経て今蘇る  
戦争と国境を越えた感動の実話



# 終戦から5ヶ月——その奇跡は、 佐渡の地に舞い降りた

昭和21年1月14日。太平洋戦争の終結からわずか5ヶ月後。佐渡島の小さな村に、英国空軍の要人機《ダコタ》が不時着した。はじめは、驚き、戸惑う、村民たちであったが、やがてイギリス兵との間に国境を越えた友情と絆を育み、《ダコタ》をふたたび大空へと飛び立たせていく。これは、67年前にあった真実の物語である。「この事実を風化させてはならない」と願う、地元フィルムコミッションの熱い働きかけによって、総製作費約2億円をかけて、ついにその映画化が実現した。

## 痛みを共有した現代人にこそ響く、“真実の人間愛”の物語

『飛べ!ダコタ』が描く世界は、現代の我々の生活とかけ離れたものではない。2011年に日本は未曾有の大災害を経験し、多くの人がいまなお再生への道を模索している。国家間では領土問題なども深刻化。人と人との絆、失意からの再生、国と国との相互理解が問われている現代だからこそ、先人たちが残した足跡を見つめ直すことが必要なのではないだろうか。そこには必ず、時代や国境を越えた“真実の人間愛”が見えてくるはずである。



## 日本映画界珠玉のキャスト・スタッフと、もうひとつの主演《ダコタ》

主演には、連続テレビ小説「どんど晴れ」でヒロインを務め、「ハンチョウ〜警視庁安積班〜」シリーズなどで活躍する比嘉愛未と、大河ドラマ「平清盛」に出演、「ふがいない僕は空を見た」では、ヨコハマ映画祭最優秀新人賞、高崎映画祭最優秀助演男優賞に輝いた窪田正孝。さらに、「カンゾー先生」で日本アカデミー賞最優秀主演男優賞を獲得し、いまや日本映画界の顔とも言える柄本明をはじめ、ベンガル、洞口依子、芳本美代子、螢雪次朗、園ゆきよら幅広い顔ぶれが脇を固める。監督は、「牡丹と薔薇」で、昼ドラブームの先駆けとなった油谷誠至。人間の機微を丹念かつ大胆に掘り取ってみせる手腕で、初の劇場作品に取り組む。油谷監督の下、結集したのは、今村昌平監督作品を多く支えてきたスタッフたち。音楽を宇崎竜童、そして石井里佳が歌う主題歌「ホームシック・ララバイ」(作曲:ジェームズ・ロイス・シャノン 作詞:阿木燿子)では、宇崎は編曲を担当し、久々に阿木とのコンビを復活。撮影に際しては、タイに現存する《ダコタ》の同型機を移送し、現地で復元して撮影。さらに、佐渡の冬から春にかけての情景を描き出すために足掛け2年におよぶ長期ロケを敢行した。

2013年秋——『飛べ!ダコタ』は、佐渡から現代日本の大空へと飛び立つ。



## 平和を考える市民映画会

入場無料

【日時】10月26日(土)午後1時30分開演

【会場】明野公民館(イル・ブリランテ)

【内容】平和朗読劇(NPO法人ヒューマンライツネット はらんきょうの会)

映画「飛べ!ダコタ」

■ 主催 筑西市

■ 後援 筑西市教育委員会

■ 問合せ 筑西市総務課 TEL 24-2178